

平成25年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成25年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 シャコ

学名 *Oratosquilla oratoria*

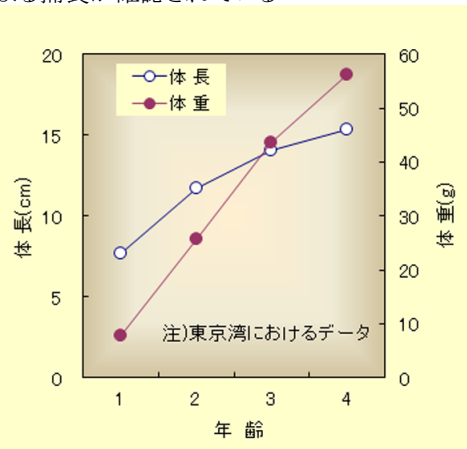
系群名 伊勢・三河湾系群

担当水研 増養殖研究所



生物学的特性

寿命: 3歳以上(本系群の詳細は不明)
成熟開始年齢: 1歳
産卵期・産卵場: 5〜9月が産卵期で年2回(5月と8月)の産卵ピークが存在、産卵個体は春季には伊勢・三河湾内のほぼ全域に分布し、特に湾口部および知多半島西岸に多い
索餌期・索餌場: 周年湾内全域
食性: 伊勢湾については不明、東京湾では体長に応じて魚類、貝類、多毛類、および甲殻類を捕食する
捕食者: 伊勢湾ではマアナゴによる捕食が確認されている

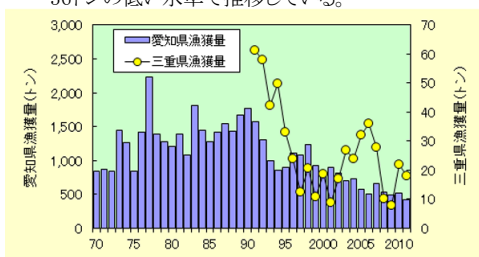


漁業の特徴

伊勢・三河湾におけるシャコは、他海域と同様に小型底びき網による漁獲がほとんどであり、他には刺網と定置網で若干漁獲されている。伊勢・三河湾での小型底びき網漁業の水揚げ金額において、最近5ヶ年では2008年を除きシャコは首位となっており、シャコの重要度は高い。

漁獲の動向

愛知県における1970年以降の漁獲量は425〜2,238トンの範囲で変動している。1990年までは数年周期で増減を繰り返しながらも増加傾向にあったが、1999年以降は1,000トン以下の状態で減少が続いている。特に2005年以降の漁獲量は400〜600トン台の過去最低の水準となり、2011年には425トンとなった。三重県の漁獲量は、1996年以降は8〜36トンの低い水準で推移している。



資源評価法

伊勢・三河湾におけるシャコ漁獲の大部分を占める愛知県の主要水揚げ港を根拠地とする小型底びき網によるシャコのCPUEを資源量指標値とし、その経年変化を主体として資源状態を判断した。その他、月別漁獲量の推移、各県の生物情報収集調査、標本船調査、漁場一斉調査ならびに新規加入量調査の結果も現在の資源状態の判断材料とした。

資源状態

伊勢・三河湾全体での漁獲量は最低の水準にある。資源量指標値は、高水準期の終期と思われる1990年から1999年にかけて減少傾向が続き、2000年以降は低い水準で推移していたが、最近では増加傾向が認められる。過去24年間の資源量指標値の最大値と最小値間を三等分して水準を判断すると、現在の資源は中位水準にある。動向は過去5ヶ年の推移から横ばいと判断した。



管理方策

本系群のシャコ資源は、漁業による管理が困難な環境要因、特に貧酸素水塊の規模拡大の影響による資源の低水準が繰り返している可能性が指摘されている。漁獲量は1970年以降で最低の水準にあるが、2010年度以降の資源評価の結果、資源回復の兆候がみとめられている。本格的な資源回復に向けては、小型シャコの保護と親シャコ量の確保が必要であることから、冬季に産卵期前の親シャコを保護して産卵水準の引き上げを図る方策を継続実施するとともに、夏季の貧酸素水塊の拡大時に小型シャコが多獲される実態をふまえた漁場利用ルールについて検討していく必要がある。

資源評価のまとめ

- 小型底びき網によるシャコCPUEの経年変化等から判断して、伊勢・三河湾系群のシャコ資源は中位水準にある
- 過去5ヶ年のシャコCPUEの推移から、動向は横ばいと判断される

管理方策のまとめ

- 環境要因による資源の低水準が継続していた可能性が指摘されているが、現在は中位水準となり、資源回復の方向にある可能性が示唆された
- 産卵前の親魚を保護することにより産卵水準の引き上げを図る方策が必要である
- 貧酸素水塊の拡大時に小型シャコが多獲される実態をふまえた漁場利用ルールについて検討していく必要がある

執筆者: 黒木洋明・渡辺一俊

資源評価は毎年更新されます。